



魔女に攫われて

基本CG13枚

「ようやくお目覚めかしら?」
「...どういうつもりだ魔女め...」

目が覚めると知らない場所だいた...
そして体が動かない
どうやら俺は目の前の魔女に攫われた
らしい...



「一体俺に何をやる気だこの魔女が…」
「ふふっそんな喧嘩腰にならなくてもいいじゃない♪」
「ふざけるな！人を攫っておいで！」



「別に危害を加えようってわけじゃないのよ
ただ少し手伝ってほしいことがあるから来てもらっただけよ」
「…誰が魔女の手伝いなどするか！」



「まあまあそんなこと言わないで♪
お薬を作るのに必要は材料を分けて欲しいだけよ♪」
「…そんなことならわざわざ俺を捜う必要なんか
ないだろ！本当の目的はなんだ！」



「まあ普段ならそうなんだけどね
今回必要なのは若い男の精液なのよ♪
そこであなたに来てもらったわけ♪」
「せ、精液…?」
「そう♡ふふっいっぱい出して頂戴♡」



「ふふ。
お薬の影響で暫くは動けないんだから
全部私に委ねてくれればいいのよ♡」
「だ、誰が魔女に好き勝手されるものか！」





「ロビはそつらう癖じつちは素直ねえ...」
「う、うんさー」
「ふふ全部私に任せてくれればいらの♡」



「ほらほら気持ち良いでしょ？」

「うっ！そ、そんなに胸を押し付けるな！」

「素直になればいいのに」

「最初に言ったでしょ危害を加える気はないって」



「どうヌルヌルして気持ちいいでしょ？」
「ま、魔女の唾なんかかけるな！
汚らわしい！」

「♡の愛おしい♡への♡お誘い♡を♡お受け♡し♡て♡あげ♡たい♡♡
また素直に♡お誘い♡を♡お受け♡し♡て♡あげ♡たい♡♡
りゅん」



「これはどうっ？
さっきより気持ちいいっ？」

「き、気持ちよくなんか…」



「こんなにビクビクしておいて説得力ないわねえ
素直になりなさいよ気持ちよくなりたいでしょ」

「どうせしばらくは体は動かないんだから
全部私に委ねるだけでいいのよ」



「ふざけたことを言うなこの魔女が！
せ、絶対俺は屈したりしないぞ！」

「大袈裟ねえ……ただ気持ちよくしてあげるだけなのに
口では強気なこと言ってももう出そうなんですよ？」



「うっ…あぁっ！」

「ホラあでたまも♡」



「ハイッまずー発アリガトウ♡
でもまだまだ出してもらうわよ」

「ク、クソ…
こんな魔女なんかには…」



ド
ク
...



「魔女でもなんでもいらいじゃない
気持ちよくなりたいでしょ？」
「…うるさい！」
「…いくら強気なことを言っても下半身
は素直ねえ」

「ふふっカワイイ♡
素直になれず我慢してる感じが
たまらないわぁ♡」





「ほらほらまた出そうなんですか？
何も我慢せず好きなだけ出して
いいのよ？」
「ク、クソ！こ、この魔女が！うっ！」

ちゅっ

しゅっ

しゅっ





「ふう…ふう…」
「ほあいよくできました♡
でも私もあなたの下半身も
まだ全然満足してないわねえ」

はー
けー

ドロ
キ

「2発程度だとまだまだ元気ねえ
若いって素敵だわぁ♡
ふふっ好きなだけおっぱい吸って
まだまだ出して頂戴♡」





(くきく...)
「どうも、気持ちいいでしょ♡」

んんん

「こんなビクビクしちゃって
カワイイわぁ♡
ホラ早く出しちゃいなさいよ♡」



びく

しゃっ

しゃっ



「ふふっこんなに出してくれて
嬉しいわぁ♡
でもまだまだ足りないわよ」





「はい、ただただ田舎のまじな屋つなをいっしょのな〜
も、も、無難な〜」
「いや、限界をなめて情けなさらねえ」

「ほらほら早く勃たせなさい♡
まだ精液は全然足りないんだから♡」





「んい...んあ...んあ...」
「んあ...んあ...んあ...んあ...んあ...んあ...」
「んあ...んあ...んあ...んあ...んあ...んあ...」





「我慢汁出しちゃって♡
これならまだまだイケそうね♡」
「も、もう勘弁してくれ…!」

トッ
トッ
トッ

「しっかり勃ったわね♡」
そろそろ私も気持ちよくな
りたくなってきたわぁ♡」
(息が出来ない…)





「ふふっ
しっかり気持ちよくしてくれないと
どいてあげないわよ♥
窒息したくなかったらしっかり舐めてね♥」



「こんなに我慢汁出しちゃって…
ふふっ、そうそうしっかり
なめてちょうだい♥」



(うっ…ふうふう…)
「そうそう気持ちいいわぁ♡
そろそろいいかしらね♡」

ドクドク

んっ





「はぁ...はぁ...
そろそろ挿れちゃうわよ♡」
「や、止める！魔女相手にそんな...」

「そんなこと言ってももう
挿入っちゃったわよ♡
ほらほら動いちゃうわよ♡」
「や、やめろー!」



「こんなにガチガチにして
本当に口と下半身が一致しないわねえ」
「うっ……く……」

「やっやっ
お尻出るとして
ちんぽも出して頂戴♡」





「よしよしら子♡
たくさん出たわね♡」

「も、もう満足したたる…
早く解放しろ…」



「何をいってるのかしら
まだ満足したなんて言っていないわよ
まだまだ出るでしょ♡」



「も、もう本当に無理なんだ！
勘弁してくれ！」





「そう言いながらまた硬くなってるじゃない
どうしようもない嘘つきねえ」



「も、もう出ないって！
す、擦り切れる…！」



「これだけ固くなればもう十分ね♡
ほらほら頑張って
まだまだ出してもらわないと困るんだから♡」

ちんちん無理だわー

本当に嘘ばかり
お仕置が必要ねえ♡



「ほら挿入れちゃうわよ
頑張りなさい♥」
「...」



「こんなに固くしちゃって...
やっぱりまだまだ出来のじゃない
嘘つまね」





「ん...ん...ん...」
「かきつてくたうね...」
「でも気持ちいいわ♡」

ズ
ズ

ズ
ズ





「ほち上に乗ってあげるからじっくりしなさい」
「うう本当にもう出なさい...」

「まだそんなこと言わないのよ、
情けないうねえ」
「ぐっ...」







「ふふふ...」
「はぁいお疲れ様ぁ♡
ふふふこれだけ出してもらえれば十分だわ
そろそろ体も動くんじゃない？」

はみ



「この魔女め!

今まで散々好き勝手

しやがって!

「あら、積極的ねえ」



「へ...ん...」
「ほらほら自分からしてまじると
だからしっかりしてなはら♡」



「ク、クッ... 出してやるー! 出してやるからなー!」

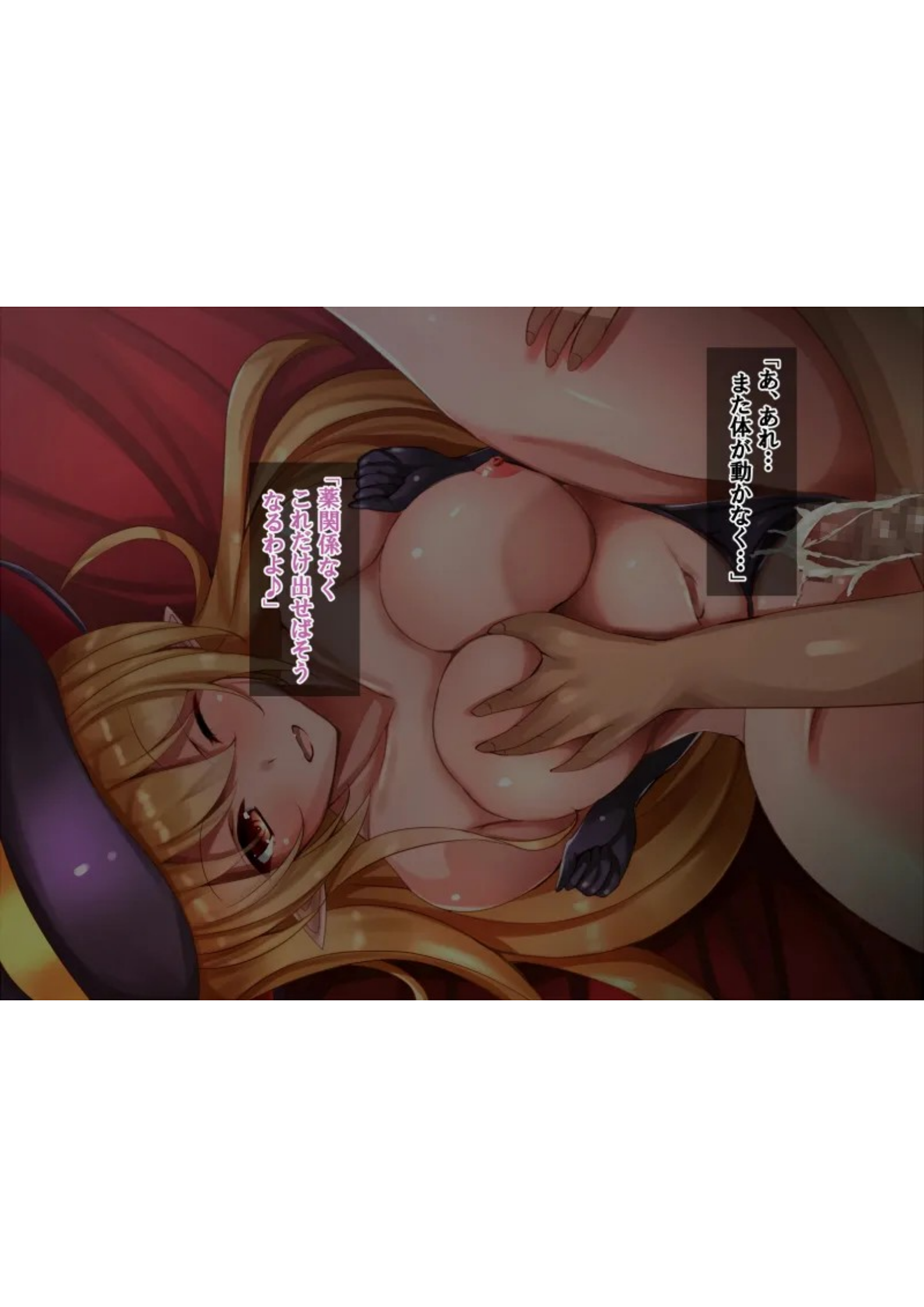
ずっ

ずっ

はっ

はっ





「あ、あれ…
また体が動かなく…」

「葉関係なく
これだけ出せばそう
なるわよ」



「はち...はち...
これだけあれば十分ね
協力してくれてアリガトウ♡」
「これで十分なら早く解放しろ！」

はち

はち

はち



「...Go~
「体何ぞいりませうな~」
「Yes~」



「材料が揃ったんだから次は完成したお薬も実験対象が必要でしょ？」

「そ、それは…」

「ふふっ、凄く良く、効く。お薬らしいから楽しみだわぁ♡」



オブリ













































































































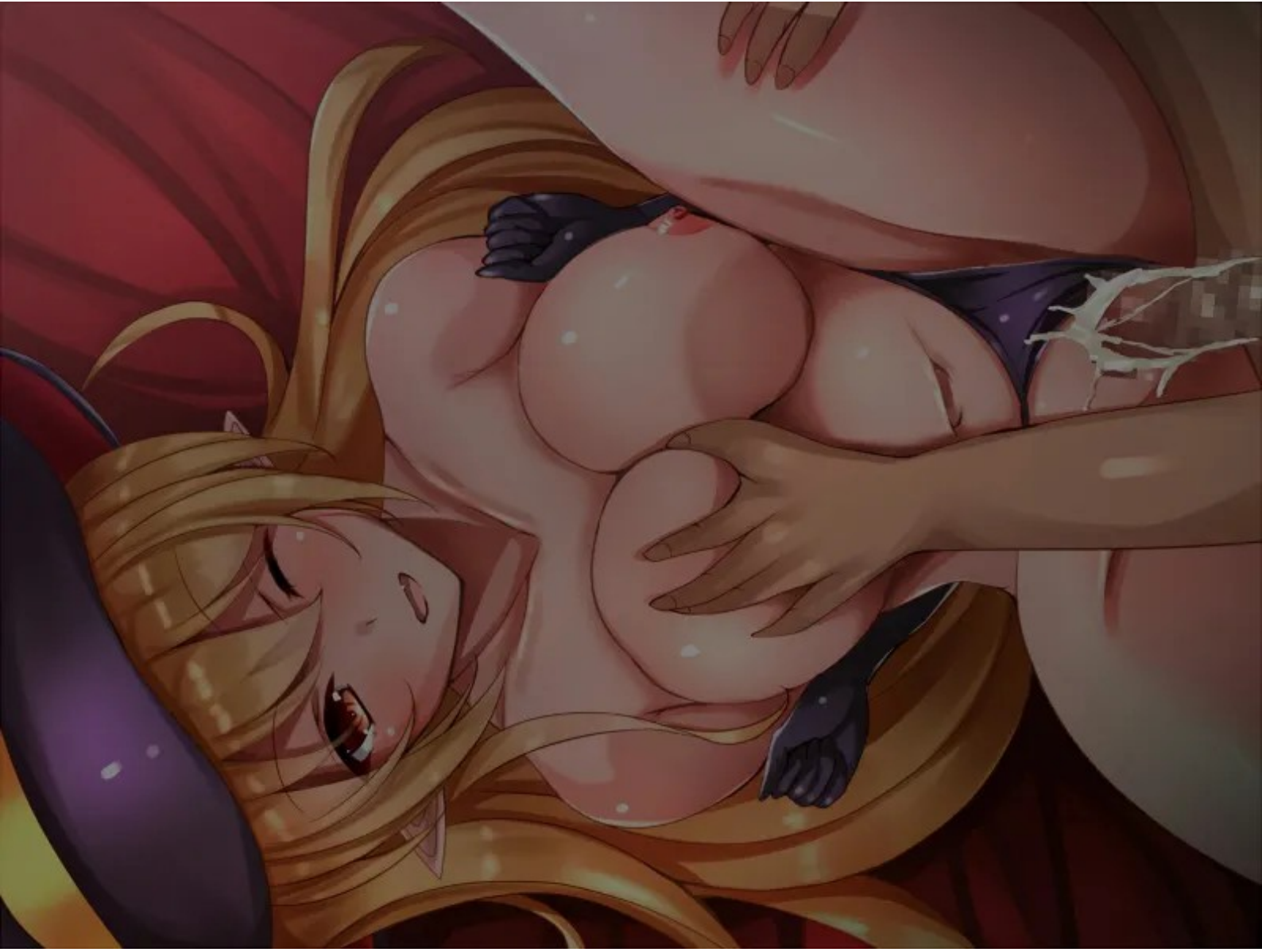





















「ようやくお目覚めかしら?」
「...どういふつもりだ魔女め...」

目が覚めると知らない場所にいた...
そして体が動かない
どうやら俺は目の前の魔女に攫われたらしい...



「一体俺に何をやる気だこの魔女が…」
「ふふっそんな喧嘩腰にならなくてもいいじゃない♪」
「ふざけるな！人を攫っておいで！」






「別に危害を加えようってわけじゃないのよ
ただ少し手伝ってほしいことがあるから来てもらっただけよ」
「…誰が魔女の手伝いなどするか！」

「まあまあそんなこと言わないで♪
お薬を作るのに必要は材料を分けて欲しいだけよ♪」
「…そんなことならわざわざ俺を攫う必要なんかないだろ！本当の目的はなんだ！」





「まあ普段ならそうなんだけどね
今回必要なのは若い男の精液なのよ♪
そこであなたに来てもらったわけ♪」
「せ、精液…?」
「そう♡ふふっいっぱい出して頂戴♡」

「ふふっ
お薬の影響で暫くは動けないんだから
全部私に委ねてくれればいいのよ♡」
「だ、誰が魔女に好き勝手されるものか！」





「ロではそのくらい癖はいいわちは素直ねえ...」
「う、うんねー」
「ふふっ全部私に任せてくれればいいの♡」



「ほらほら気持ち良いでしょ？」

「うっ！そ、そんなに胸を押し付けるな！」

「素直になればいいのに」

「最初に言ったでしょ危害を加える気はないって」



「どうヌルヌルして気持ちいいでしょ？」
「ま、魔女の唾なんかかけるな！
汚らわしい！」

「これはどうう？
さっきより気持ちいいじやない？」

「き、気持ちよくなんか…」



「こんなにビクビクしておいて説得力ないわねえ
素直になりなさいよ気持ちよくなりたいでしょ」

「どうせしばらくは体は動かないんだから
全部私に委ねるだけでいいのよ」



「ふざけたことを言うなこの魔女が！
ぜ、絶対俺は屈したりしないぞ！」

「大袈裟ねえ……ただ気持ちよくしてあげるだけなのに
口では強気なこと言ってももう出そうなんですよ？」



「ハイッまず一発アリガトウ♡
でもまだまだ出してもらうわよ」

「ク、クソ…
こんな魔女なんかには…」



ド
ク
...



「魔女でもなんでもいらいじゃない
気持ちよくなりたいでしょ？」
「…うるさい！」
「…いくら強気なことを言っても下半身
は素直ねえ」

ほよ
ほよ

い
あ

「ふふっカワイイ♡
素直になれず我慢してる感じが
たまらないわぁ♡」





「ほらほらまた出そうなんですよ？
何も我慢せず好きなだけ出して
いいのよ。」
「ク、クソ！ここの魔女が！うっ！」





「ふう…ふう…」
「ほあいよくできました♡
でも私もあなたの下半身も
まだ全然満足してないわねえ」

はー
けー

ドロカ

「2発程度だとまだまだ元気ねえ
若いって素敵だわぁ♡
ふふっ好きなだけおっぱい吸って
まだまだ出して頂戴♡」



「こんなビクビクしちゃって
カワイイわぁ♡
ホラ早く出しちゃいなさいよ♡」





「ふふっこんなに出してくれて
嬉しいわぁ♡
でもまだまだ足りないわよ」





「はい、ただただ田舎のまじな屋のさういふものな—
—でも、無難な—」
「いや、限界をなめて情けなさらねえ」

「ほらほら早く勃たせなさい♡
まだ精液は全然足りないんだから♡」





「んい...んあ...んあ...」
「んあ...んあ...んあ...んあ...んあ...んあ...」
「んあ...んあ...んあ...んあ...んあ...んあ...」





「我慢汁出しちゃって♡
これならまだまだイケそうね♡」
「も、もう勘弁してくれ…」

トッ
トッ
トッ

「しっかり勃ったわね♡」
そろそろ私も気持ちよくな
りたくなってきたわぁ♡」
(息が出来ない…)





「ふふっ
しっかり気持ちよくしてくれないと
どいてあげないわよ♥
窒息したくなかったらしっかり舐めてね♥」



「こんなに我慢汁出しちゃって…
ふふっ、そうそうっしっかり
なめてちょうだい♡」



(うっ…ふっふっ…)
「そうそう気持ちいいわぁ♡
そろそろいいかしらね♡」

ドクドク

んっ





「はぁ...はぁ...
そろそろ挿れちゃうわよ♡」
「や、止める！ 魔女相手にそんな...」



「そんなこと言ってももう
挿入っちゃったわよ♡
ほらほら動いちゃうわよ♡」
「や、やめろー!」

ずっ
ずっ

「こんなにガチガチにして
本当に口と下半身が一致しないわねえ」
「うっ…くっ…」

「やだ
もう出るでしょっ
ちかわも出して頂戴♡」





「よしよし子♡
たくさん出たわね♡」

「も、もう満足したたる…
早く解放しろ…」



「何をいってるのかしら
まだ満足したなんて言っていないわよ
まだまだ出るでしょ♡」



「も、もう本当に無理なんだ！
勘弁してくれ！」





「そう言いながらまた硬くなってるじゃない
どうしようもない嘘つきねえ」



「も、もう出ないって！
す、擦り切れる…！」

「これだけ固くなればもう十分ね♡
ほらほら頑張って
まだまだ出してもらわないと困るんだから♡」





おもう無理なわー

本当に嘘ばかり
お仕置が必要ねえ♡

「ほら挿入れちゃうわよ
頑張りなさい♡」
「...」



「こんなに固くしちゃって...
やっぱりまだまだ出来るじゃない
嘘つまねよ」







「ほち上に乗ってあげるからしっかりしろなさらん」
「うう本当にもう出なりたい...」

「まだそんなこと言っつものっ
情けないわねえ」
「うっっっ」







「ふふふ...」
「ほあいお疲れ様あ♡
ふふふこれだけ出してもらえれば十分だわ
そろそろ体も動くんじゃない？」

「はま」



「この魔女め!

今まで散々好き勝手

しやがって!

「あら、積極的ねえ」



「〜♡...♡...」
「ほらほら自分からしてまじると
だからしっかりしなはれ♡」

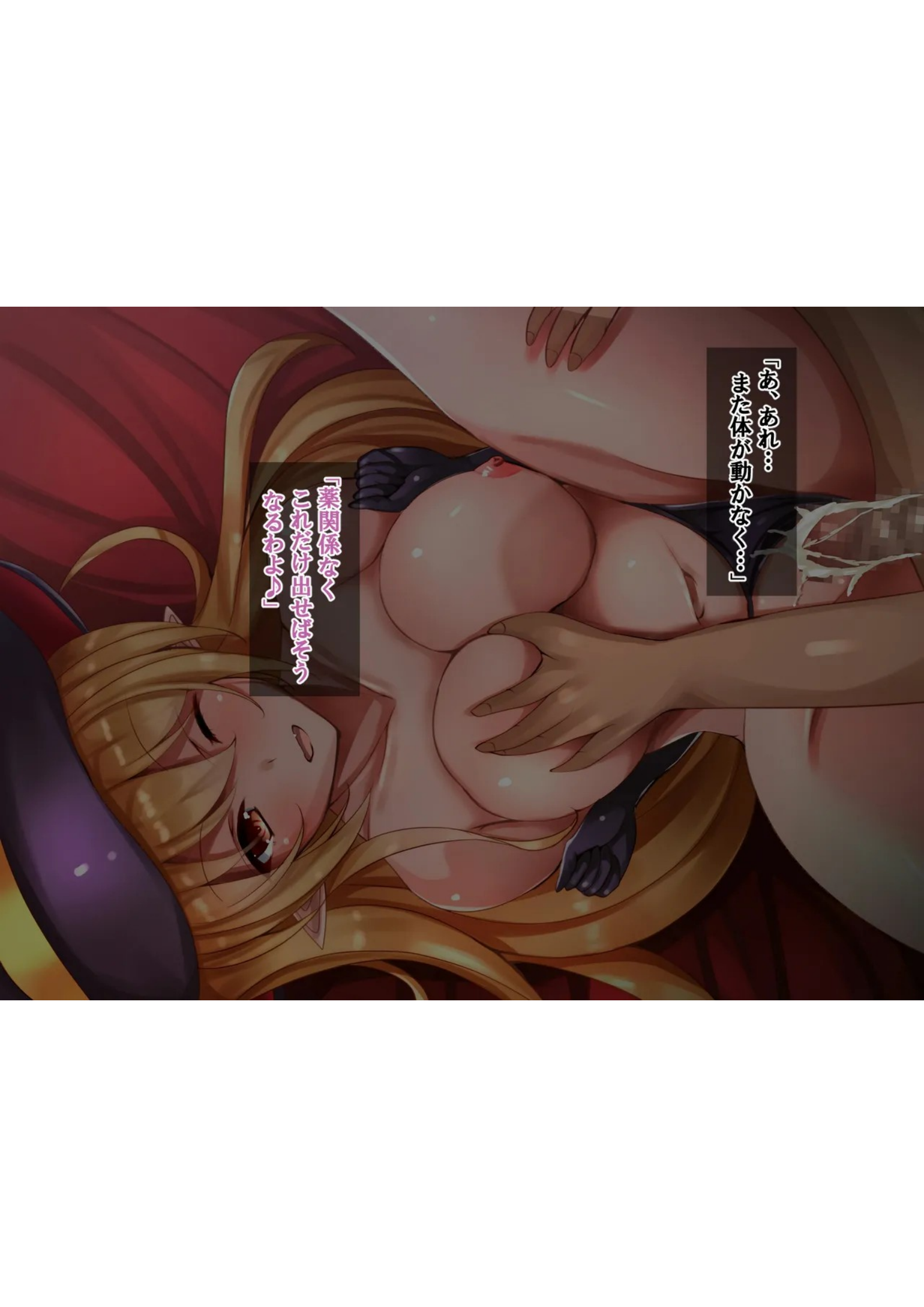
はっ

はっ



「ク、クン...
出してやるー！出してやるからなー！」





「あ、あれ…
また体が動かなく…」

「葉関係なく
これだけ出せばそう
なるわよ」



「はぁ…はぁ…
これだけあれば十分ね
協力してくれてアリガトウ♡」
「これで十分なら早く解放しろ！」

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ



「...」
「一体何を言ってるのさ...」
「...」



「材料が揃ったんだから次は完成したお薬も実験対象が必要でしょ？」

「そ、それは…」

「ふふっ、凄く良く、効く。お薬らしいから楽しみだわぁ♡」



オブリ























































































































